

雄勝半島の集落における庭木についての調査
石巻市雄勝半島における地域の固有性・多様性に基づく集落再生に関する研究 その7
Investigation about garden plants in Ogatsu peninsula colony
Research on the colony reproduction based on the indiginity and diversity of the area
in the Ishinomaki Ogatsu peninsula # 7

山崎誠子¹, 加藤俊彦², ○西明慶悟², 小島陽子³
 Yamazaki Masako¹, Katou Toshihiko², *Nishiaki Keigo², Kojima Yoko³

This research records "green memory" in the local reproduction and architectural designs, such as a revival residence, ignited by the revival from the Great East Japan Earthquake, and aims at using the underlying data at the time of inheriting the result to heights relocation, a community institution, and a park and a street. In the Ogatsu peninsula, investigation selected the respectively typical colony in the area passed from the tsunami of the Great East Japan Earthquake, and the area in which it resides still now, and performed the kind of garden tree, and record of distribution. In main enumeration, it turned out in the garden tree of a colony that a difference can be checked and various trees are planted by planting of a road, or a flat part and a slope part.

1. はじめに

前稿に続き、東日本大震災復興を契機とした地域再生と復興住宅等の建築設計に関する研究のうち、「緑の記憶」を記録し、その結果を高台移転やコミュニティ施設、公園・街路へと継承する際の基礎資料にすることを目的とした調査(2013年9月2日~4日)の報告を行い、本稿では、雄勝半島の集落における庭木の調査結果について分析を行い、前稿の結果と併せて雄勝半島の植栽の特徴を考察する。

2. 各集落の庭木についての調査結果

【調査結果】各集落の庭木調査で、雄勝半島の植栽の特徴が見られると考える3ヶ所を取り上げる。

① 花や実を特徴とする庭 (船戸地区)

船戸地区は、雄勝半島の南西に位置し、雄勝湾の最も奥のエリアである。図1は津波で流された個所であるが、住宅の周囲を四季の花々や実のなる木、紅葉を特徴とする樹木で囲み、1年を通して彩りのある庭を作っていたことがうかがえる。アプローチに近い位置に夏を花期とする樹木を、日当たりの良い南側には実をつける樹木を植えている。

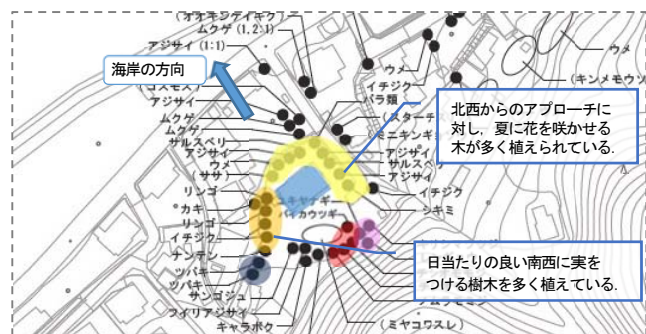


図1. 船戸地区のプロット図

表1. 船戸地区で確認できた樹種の例

春に開花する樹種	キリシマツツジ, レンギョウ など
夏に開花する樹種	アジサイ, サルスベリ, ムクゲ など
紅葉する樹種	チシオモミジ, ノムラモミジ など
冬に開花する樹種	ツバキ
実をつける樹種	ウメ, カキ, リンゴ など

② 道路の両側の斜面を低木で植栽する (水浜地区)

水浜地区は、雄勝湾を挟んだ南側に位置する。図2は地区の南側で、高台にあるため、津波の被害を免れた個所である。海岸沿いから集落や仮設住宅に向かう道路の両側の斜面に、花を特徴とするツツジやバラなどの低木を中心に植栽することで、美しいアプローチ空間を作っている。



図2. 水浜地区のプロット図

表2. 水浜地区で確認できた樹種の例

花を特徴とする樹種	ツツジ類, ナナカマド, アジサイ, キンモクセイ, バラ類 など
-----------	-----------------------------------

1: 日大短大・教員・建築・生活デザイン 2: 日大理工・院(前)・建築 3: 日大理工・PD・建築

③ 地形の高低差に対応して植栽する（大須地区）

大須地区は、雄勝半島の最東端に位置する。集落全体が少し高台にあるため、津波の被害は比較的少ない。図 3 の中心部は、メインとなる道路周辺に住宅が密集し庭を植栽するスペースが十分に確保できないため、低木をプランターに植えて置いている所が多く見受けられた。また、斜面に面して庭をもつ住宅は、斜面に花を特徴とする樹木を植栽することで、緑と花の壁のような庭を作っている。メインの道路の南にある住宅では、ツツジだけでもサツキ・ドウダン・ヒラド・キリシマの 4 種類が確認でき、他にも紅葉や実をつける樹木が植えられ、四季を感じさせる庭を形成している。



図 3. 大須地区のプロット図

表 3. 大須地区で確認できた樹種の例

道路沿いの樹種	キャラボク, ナンテン, ヒサカキ, ブットレア, マツバギク など
斜面の庭の樹種	ツツジ類, ツバキ, ピラカンサ など

【考察】集落の庭木として用いられる樹種に以下のような傾向が見受けられた。

- ・ツツジ, サクラ, サルスベリ, ツバキ, モミジ, ウメ等, 花や実をつけたり, 紅葉を特徴とする樹種
- ・アカマツ, クロマツ, ソメイヨシノのように, 庭や玄関先でシンボルツリーとなる樹種
- ・ハイビヤクシン, カマクラヒバのように常緑を活かして外部からの視線を遮ることのできる樹種

特に庭づくりにおいては彩りを重視する傾向があり、前稿で述べた神社周辺に見られる自然植生や人工植栽とは異なる樹種が用いられていることがわかる。また、樹高に関しても、神社周辺に対して庭木のほうが低い樹種であることが多く、手入れもしやすく、人の目線で鑑賞しやすい高さものが好まれているようである。

3. 庭木に対する津波の影響

雄勝半島はリアス式海岸の特性をもち、各浜の集落はそれぞれが海に面し、周囲を山に囲まれた小規模なものである。その中で、集落の中心部はほとんど樹木が残っておらず、一方で山の斜面に植えられた樹木は、津波を受けたと思われる場所であっても生き残っているものが多かった。これは、津波を受けた際、斜面側にあった樹種ほど引き波の影響する時間が短く、流された住宅等にもぶつかることもなく残ったのではないかとと思われる。

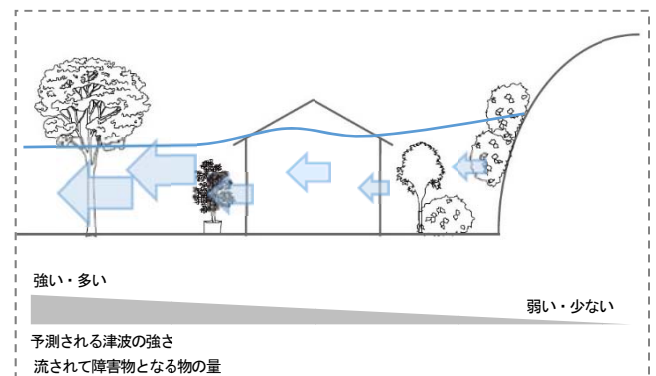


図 4. 津波の影響の考察

4. まとめ

本調査では、自然植生と集落の庭木で異なる種類の植栽方法が用いられていることがわかった。特に集落の庭木においては、道路や平坦部・斜面部の植栽によって違いが確認でき、色とりどりの樹木が植えられていることが伺えた。夏季は花や実をつけている樹木は少なく、全体として緑色が目立つ庭が目立ったが、今後は夏以外の季節においても同様の調査を行い、より詳しく「緑の記憶」に関する考察を深めていきたい。

また、高台移転に際し、これまでの山に囲まれた環境とは異なる地形が形成されることが予測されるため、今回の調査で明らかになった庭木の樹種をどのように計画していくことが望ましいのか考察したい。

本研究は、日本大学理工学部プロジェクト「東日本大震災復興を契機とした地域の固有性・多様性に応える地域再生と復興住宅等の建築設計に関する研究～宮城県石巻市雄勝町を対象として～」を基に行っている。

【参考文献】

[1] 山崎誠子+建築知識編集部：「新・緑のデザイン図鑑」, pp.243, 2009
 [2] 山崎誠子：「樹木別に植栽プランが分かる 植栽大図鑑」, pp.203, 2013
 [3] 佐竹義輔・原寛・互理俊次・富成忠夫：「フィールド版 日本の野生植物 木本」, 1993
 [4] 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・互理俊次・富成忠夫：「フィールド版 日本の野生植物 草本」, 1985